



あけまして おめでとうございます
今年で ピッコロは 25 周年
うさぎのように 新たな景色へと ジャンプ!



狩猟生活?のこども時代から見たこどもの今と清瀬こども劇場のビジョン

NPO 法人清瀬こども劇場 長谷川 元文

こども時代を緩やかな山並みの中国山地の小さな盆地で過ごした私にとって、おやつというものは畑でとれる夏のスイカやとうもろこし、秋のサツマイモ、冬は干し柿やかき餅ぐらいて、普段は結構飢えていたようです。シンジャイと呼んでいた野草を食べたり、学校帰りに近所の柿をとったり、仲間とアケビやクリを獲りに山に入ったことも度々でした。川に潜れるようになった小学校の高学年の夏休みは、ウグイという、大きいと30センチくらいになる魚を獲ることに夢中になりました。自分で作ったモリで上流からウグイを仕留めながら下っていき、太陽が真上に来る頃、秘密基地にしている河原に到着。前もって隠しておいたマッチで火をおこし、獲った魚をその辺の木の枝で作ったくしで刺して塩をすりこみ焼いて食べました。潜水時間も長くなると、石などで囲まれている魚たちの隠れ家のヤゲへの追い込み漁をして手づかみで獲れるようになり、この楽しさと達成感は半端ありませんでした。山の中腹の、こどもしか通れない狭い岩の裂け目のあるコウモリ岩と呼んでいた洞窟の中に、徒党を組み、ろうそくをもって入って遊んだ探検ごっこはハラハラドキドキがマックスの代表です。空腹を満たす必要をあそびに変え、夢中になって自由に遊んだ思い出の多くは小学生時代。学校の勉強の記憶は何故か希薄ですが、これらのあそびは田舎の山や川、夕焼け、西の空に輝く一番星などの記憶とともに、私の原風景として脳裏にしっかり刻まれているだけでなく、今に至る人生の原動力だったのではないかと今さらのように思うのです。そんなあそびのことでダメといわれた記憶がほぼないのは、大人たちもそのように寛容なこども時代を過ごしてきたからかもしれません。

ひるがえって、今のこどもたちは様々な危険に囲まれ、心配の種が増える中やむを得ない面もあるかと思いますが、あまりにも多くのダメダメで、どの子も持っているあそび虫が縮こまざるを得ない生活を強いられているように見えます。私が関わっている清瀬こども劇場では、誰もがフラットな関係の中で、そんな小さくなったこどものあそび虫を刺激しながら、こどもが異年齢で自由に遊んだり、様々な芸術や自然に親しむことのできる体験やそれらを企画する体験を通じて、こどもも大人も共に心豊かに成長できる仲間づくり・地域づくりの活動を長年行ってきました。こども時代にこのような体験の機会を持てた若者が、それらの体験も清瀬でのこども時代の原風景の一つだと思えるよう願っています。

そんなワクワクを体験できる機会が清瀬中のこどもに広がればとの思いから、清瀬こども劇場で30数年前からこどものあそびの拠点・居場所になる児童館五館の建設を求めて大運動をした結果、今の「ころぼっくる」が誕生。それ以来「ころぼっくる」が児童館として大きな役割を果たしてきました。開館から10年たったそんなある日、当時植樹した木も大きく成長し、さぞかしこどもたちが木登りを楽しんでいるでしょうねと職員さんにお話したところ、こどもが木登りしていたら危ないから降りなさいと指導する、現状では残念ながらそうせざるを得ないとのことでした。このできごとは、こどものチャレンジへの応援より大人の都合が優先され、大人の中で「危ないあそび」の範囲があまりにも狭まっていることを実感した一コマでした。どうしたらこどもが自由に過ごしたり遊んだりできる場がつかれるでしょうか。こども劇場では、地域でどの子ももっと自由にこども時代を過ごせるようにするための場ができないかと10年近く前から検討を重ねてきました。あちこち見学したり、アンケートしたりして辿り着いたのが、禁止事項のない、自分の責任で自由に遊ぶ

空間を保障しようと生み出されたプレーパークと合体型のこどもアートセンター構想です。こどもの権利条約の精神に基づき、こどもを真ん中に自由交流できる多世代の居場所になるような場にしたいと愛称も「みんなの家」とし、昨年オープン。小さなスペースですが、私たちにとっては大きな一歩が踏み出されました。地域の皆さんのお力を頼りにしながら、ツクリツヅケルをモットーに進めていこうと考えています。自宅から5~10分のところにほしいというこどもの要望を満たすには一小学校区にみんなの家が2~3つは必要になる壮大な計画で、新たにつくるという方法もありますが、行政の未使用施設、あるいは空き家や空き店舗・空き部屋(提供ご希望の方募集しています)など活用するのが持続可能といえるのではないのでしょうか。そのためにも今後は行政等関係機関との協力協働の働きかけを強めていきたいと思えます。

期せずしてピッコロ、ウイズアイ、こども劇場という清瀬の3つの子育て・育ちあいNPOがそれぞれにこどもの居場所を構想、実現。今後の展開が楽しみなこの頃です。



日本財団助成事業「子ども第三の居場所」いよいよ着工！

↓こんな感じです。(12月末現在)

今年度より日本財団の助成を受け、取り掛かっている子どものための居場所づくり。予定より準備が長引いていましたが、11/21(月)に地鎮祭を行うことができました。お世話になっている工務店や設計士の皆さまとともに、工事の安全と、この場所が子どもたちと地域にとって、「ここがあって良かった」と、喜んでもらえるような交流の場となるようにと願ってきました。順調に進めば4月中には完成の予定です。みなさんもぜひ、どんなおうちが建つのか楽しみにしつつ、日に日に進んで行く工事を見守ってください。



養育支援ヘルパー養成講座 6名の修了生が誕生しました！

2022/11/10~12/9の期間 計6日間開催

養育支援訪問事業とは、様々な要因により養育支援が必要な家庭に対して、子育て経験者等が訪問し家事・育児の支援を実施する事業です。それにより、家庭の抱える養育上の問題の解決や保護者の負担を軽減することを目的とする支援です。清瀬市では基本1時間500円~利用でき、産後の利用のニーズも高く、利用しやすいと好評です。

養成講座では、清瀬市子ども家庭支援センター長や保健師から清瀬市の子育て事情についてもお聞きすることができ、地域の家庭が抱える課題への理解を深めました。



赤ちゃん人形を使って、沐浴の練習
産後のお母さんに代わっての
赤ちゃんのお世話を想定して。



●研修担当コーディネーターより
昨年度から引き続きの方や保育サービス講習会10月の修了生が受講してくださいました。ファミサポ講習会と養育支援の講習会を合わせると、何とトータル6.0時間以上にもなる講習をチームワークを発揮して最終日まで受けていただき感謝です！

これからのご活躍に期待しつつ、また皆さんと学び合える日を楽しみにしています。



★引き続き ご協力ください★

会員の皆さまには日頃より感染対策にご協力いただき、心から感謝しております。今後も、新型コロナウイルス感染症対策チェックリストを活用しての支援へのご協力をよろしくお願いいたします。





利用者 Fさん

◎初めての出産と育児… 8月のある晴れた日、息子が生まれました。初めて見た時、たった今自分のお腹から出てきたとは思えないくらい大きく感じましたが、自分の胸元に運ばれてきた息子は驚くほど軽くて、そしてとっても温かかったです。退院してから1ヶ月間は、主人が育休でいたので心配はありませんでした。しかしその後は単身赴任先に戻ってしまうことが決まっていたので、私としてはそこからが本番という思いでした。生後1ヶ月の息子と2人きりの生活が始まり、しばらくは家に引きこもりっぱなしでした。常に睡眠不足で身体はだるく、なぜ息子が泣いているのか分からず抱っこしてオロオロしているとあっという間に外は暗くなりました。正直、ああまた今日も一日が終わってしまったという達成感のない日々でした。外の世界と交流をした方が良くは分かっていますが、コロナ禍で他人との距離感が難しい上に生まれたばかりの赤ちゃんがいる。そう思うと積極的に外に行く気にはなれませんでした。

その為、出産前から登録していたホームビジターを利用することにしました。

◎支援を利用して感じる事… 最初は外出するきっかけが欲しかったので、子育て広場や買い物に同行していただきました。それをきっかけに少しずつ散歩や買い物に行けるようになりました。また、同じ月齢のママと赤ちゃんの会に参加してママ友が出来たことも大きかったです。ホームビジターママさんに教えていただいたベビーマッサージにママ友を誘って参加もしました。外出や他者との関わりが増え、月齢が進むことで新たな悩みも増えました。昨日うまくいったからといって今日もうまくいくとは限らない、初めての育児はまさに3歩進んで2歩下がる毎日だと痛感しました。そんな時、ホームビジターママさんにはとても支えていただきました。訪問の後半はただひたすら2時間、時には泣きながら話を聞いてもらって、私にとってかなり精神的な支えとなった存在でした。

◎清瀬での様々な支援を利用した子育て… 他にも、養育支援ヘルパーでは食事の作り置きや息子の保育をお願いして、ゆっくりとお風呂に入ることができました。また、思い切ってファミサポを利用し、産後初めて、息子を預けて外出をしました。リフレッシュして数時間ぶりに会った息子はこれまた可愛くて仕方なかったです。ワンオペ育児が始まった当初、私は一人で全てをやらなきゃいけないと背負い込んでいました。でも、探してみると、案外私と息子を支えてくれる方たちがいることが分かりました。自分では調べ尽くしていたつもりでしたが、まだ知らない地域の情報を知れたのは大きかったです。どんどん地域の支援を活用しながら清瀬で子育てをしていきたいです。これから先も息子の成長と一緒に見守っていただけたら嬉しいです。ありがとうございます。



月2回のお約束

支援者 齋藤しのぶ

介護サポート・ピッコロを利用されている Yさん宅への訪問、もう4年半ほどの活動になっています。この原稿を依頼されて私のスケジュール帳をみて、「あ～、そんなにご一緒していたんだなあ。」と改めて思いました。

Yさんは、いつも私のことを待っていてくれます。「お宅が来るから午前中は片付けをしたんだよ。きれいになっているでしょ。」と笑顔のYさん。Yさんの「リビングには、お勤めしていた頃の写真が飾られています。その表彰状を見ながら、お仕事の内容や会社の上司や仲間の話などをいきいきと自慢気におしゃべりしてくれます。

昔の思い出がどんどん甦ってくるようで、お顔も楽しそう。私が「それでどうなったのですか？」と質問するのも嬉しそうにしています。

これからも月に2回の訪問でYさんが少しでも楽しい気持ちになっていただけるように、長く長く活動していきたいと思ひます。



K-net 子育てサポーター養成講座 映画「ゆめパのじかん」上映会 のおしらせ

■1/16(月) ころぼっくるホール

■上映開始時間①10:00～②14:00～

■参加費:研修のため無料(要申込)

“川崎市子ども夢パーク”を舞台にしたドキュメンタリー映画です。子どもにとって過ごしやすい場所とは?みなさんと考える機会にしたいと思います。

お申込:下記お申込みフォームまたはピッコロ事務所(042-444-4533)まで

10:00～↓



14:00～↓



《会員状況 2023.1.1 現在》正会員 110 名・準会員 70 名・賛助会員 12 名 (団体 2 名・個人 10 名)

2022 年度、居場所づくりを開始しますので、皆さまからのご寄付どうぞよろしくお願いいたします。

♥法人会員♥



新鮮こだわり中国料理

同心居



(株)関工務店



■NPO の活動を維持していくため、ピッコロでは寄付を募っています。事務所にぼち袋も用意していますが、直接お振込みくださる方もいらっしやいます。会員の皆さんに限らず、お知り合いの方へお声掛けいただくと嬉しいです。お気持ちをお願いします。

【寄付お振込先】ゆうちょ銀行【口座名】子育てネットワーク・ピッコロ【口座番号】00190-6-602187

11 月～12 月の動き		— これからの活動予定 —	
○ピッコロ	△K-net、つどいの広場	◆ファミサポ	HS=ホームスタート HV=ホームビジター
10/31・11/1(火) HS 産前産後 HS 養成講座		1/5(木)9:15～ ◆調整会議(ころぼっくる地域活動室)	
11/2(水)○定例会		9:30～ △K-net 運営会議(事務所)	
11/7(月)◆調整会議△K-net 運営会議		1/6(金)10:00～○定例会(けやき/セミナーハウス)	
△つどいの広場調整会議(元町つどい)		1/9(月)13:00～△つどいの広場調整会議(元町つどい)	
11/8(火)◆3～4 か月健診		9:45～○東京都助成研修会支援者向け②(立川ホール)	
○事務連		1/13(金)10:00～△K-net 子育てひろば(アイレック会議室)	
11/10(木)○養育支援ヘルパー養成講座(～12/9 まで毎週木曜開催)		9:45～○事務連(清瀬小第 1 学童クラブ)	
11/11(金)△K-net 子育てひろば(アイレック会議室)		9:45～○東京都助成研修会行政向け③(立川ホール)	
11/16(水)○学童クラブ研修会		1/16(月)10:00～/14:00～△K-net 子育てサポーター養成講座	
八重樫貴之氏/作業療法士		○学童クラブ研修会 映画「ゆめパのじかん」	
11/17(木)△K-net リフレッシュ講座		上映会(ころぼっくるホール)	
11/18(金)○東京都子供が輝く応援事業検討委員会		1/17(火)12:30～◆3～4 か月健診(市役所)	
11/19(土) HV 東京 HS ビジターデー		1/23(月)9:45～○東京都助成研修会支援者向け②(立川ホール)	
11/24(木)○東京都子供が輝く応援事業 ヒアリング		1/27(金)9:45～○東京都助成研修会行政向け③(立川ホール)	
12/1(木)△K-net リフレッシュ講座		1/30(月)9:45～○東京都助成研修会支援者向け②(立川ホール)	
12/2(金)○正会員のつどい		2/2(木)10:00～○正会員のつどい(けやきホール/第 3 会議室)	
12/4(日)◆全体交流会		2/3(金)9:45～ ○東京都助成研修会行政向け③(立川ホール)	
12/5(月)◆調整会議△K-net 運営会議△つどい		2/6(月)9:15～ ◆調整会議(ころぼっくる地域活動室)	
12/6(火)○事務連		9:30～ △K-net 運営会議(事務所)	
12/9(金)△K-net 子育てひろば		13:00～△つどいの広場調整会議(元町つどい)	
12/11(日)12(月)19(月)		2/7(火)9:45～ ○事務連(清瀬小第 2 学童クラブ)	
○東京都助成研修会支援者向け①		2/10(金)10:00～△K-net 子育てひろば(アイレック会議室)	
12/13(火)◆3～4 か月健診		2/13(月)14:00～○責任者会議(けやき/第 1 会議室)	
12/15(木)HV スキルアップ研修会		2/14(火)12:30～◆3～4 か月健診(市役所)	
		3/1(水)10:00～ ○定例会(けやきホール/セミナーハウス)	
		*当法人定例会・正会員のつどいは密回避のため 2 回に分けておりましたが、通常 10 時間催といたします。ご参加ください。	



《編集後記》

小中学生一人当たりの学習費が、2021年度、過去最高だったことが文部科学省の調査でわかったという。なかでも公立の小学生の塾にかかる費用は年間平均約8万1000円と過去最高額となり、それは、学習は「学校+塾で当たり前前」ということを意味しているのではないだろうか。

そうなってくると、家庭の経済的な事情で塾に通うことのできない子どもたちや、学習だけでなく、スポーツや芸術などの習い事の機会が乏しい子どもたちには、周りとの「差」が重くのしかかってくる。学ぶ機会の不平等さは、夢を抱くことさえも難しくさせてしまうかもしれない。「子どもを取り巻く環境は子どもの学歴に影響し、学歴は収入に影響する」という「貧困の連鎖」を断ち切るためには、子どもの努力だけに頼ってはいけないうことだ。

清瀬市では、令和2年から国の助成による「支援対象児童等見守り強化支援事業」で生活支援・学習支援等に取り組んできた。ピッコロでは、日本財団助成「子ども第三の居場所」事業として、放課後の子どもたちの生活支援などのサポートに取り組んでいく。すべての子どもに心の安全基地とプラスアルファの学習・豊かな体験の機会を。そして未来の選択肢を広げ、夢を叶えるチャンスと地域のかたで切り開いていきたい。